

主な記事

- 伊豆の国市で開催……(1面)
○東京でシンポジウム……(4面)
○自然農を展開……(5面)
○由井代表の基調講演……(8面)

環境農業新聞

メール:ecoagri-na@sweet.ocn.ne.jp

第14回日本の農業と食を考えるシンポジウム盛大に開催

蘇った耕作放棄地でセレモニー

日本豊受自然農

若い人達の熱意と決意

山下の伊豆市長、喜びの挨拶



耕作放棄地を再生したことに乾杯する伊豆の国市の山下市長と由井代表

第14回日本の農業と食を考えるシンポジウムは6月18日午前10時から耕作放棄地の水田を再生した伊豆の国市金谷地区でエキネシアハーブ畑での花摘み収穫祭をオープニングセレモニーとして開催し、その後、東京・世田谷の用賀にあるChihom東京校で「食料危機を乗り越える鍵は豊受式自然農にあり」をテーマに盛大に開催された。シンポジウムのオープニングセレモニーには山下伊豆の国市長を始め静岡県東部農林事務所、伊豆の国市金谷地区長等の来賓が出席する中で行われ、いずれの人も荒れ地だった葦山金谷地区の圃場を、数年がかりで見事に田んぼとハーブ畑へと再生させたことを絶賛していた。

エキネシアの花が咲き誇り、荒地が蘇った水田をバックに主催者の日本人達の熱意と決意があつたからですと語った。豊受自然農の由井眞子代表が挨拶に立ち、咲き誇るエキネシアについて話



農林事務所の井草氏

をした後、「荒れ放題の耕作放棄地を蘇ったのは若い人達の熱意と決意があつたからです」と語った。水田には天然記念物のモリアオガエルなどが戻って水田に蘇らせるのに80メートルの水引きのパイプ工事を行ったこと等をあげ、耕作放棄地を蘇る

ようにと熱い思いを持った若者がいれば日本の国は安泰です。若者よ農業をやろうと訴えた。また日照不足で開花が遅れていたエキネシア畑には、光合成を活性化させ、目にも優しい光と日照不足に役に立つ国産LEDアステカライトを当て実験



金谷地区の酒井区長

したことを紹介、さらにボタニカルライトという植物の根と土壌菌が発生させる電気を利用した光を紹介してその活用についても言及した。

豊受式自然農について「虫などの糞や死骸、木の粉末、植物残渣等が御古菌を使って窒素、リン酸、カリに。化学肥料は必要とせず、愛情と感謝の気持ちを注いでいくのが豊受式です」と語った。来賓として出席した山下正行伊豆の国市長は、蘇った水田を見ての感想を述べながら「我が国はフードロス、それから耕作放棄地がどんどん増え



第14回日本の農業と食を考えるシンポジウムは伊豆の国市金谷地区のエキネシアハーブ畑でオープニングセレモニーが行われ、参加者と記念撮影

いうように利用するべきと思っております。私は政策の中にも少しづつでありますが、財政の問題もありますが取り組んでいるところですので。今日は豊受さんからこういうところを見させて頂きます。本場に里山にマッチして本場にいなあと思っています。我々も参りにさせてもらいたいです」と語った。

続けている状況にあるわけですが、我が国の食料安全を確保していくには、なんとしても増える耕作放棄地を再生し、景観作物を植えること

ら政策に取り込んでいきたいと思っております」と耕作放棄地が蘇ったことを喜んでいました。その後、山下市長の音頭で乾杯し、報道機関からの質問を受けた。伊豆

の国市の農業の方向性についての質問に山下市長は「農業の多面的機能を発揮させるために維持、国土保全、景観、里山の維持などを進めて行くと。ようやく有機農業、自然農に市として足を踏み入れて、今年から助成措置も始めましたので取り入れられたので、とにかく自給率をあげなくてはいいませんが、耕作放棄地を再生させればと思っております」と語った。また、豊受式自然農についての質問に由井眞子代表は「原種の種を探し求めて昔ながらの種は強い、種が大事なわけですよ。百姓は種を取りますよ。種と土を戻していい微生物を撒いてしまつと除菌剤を撒いてしまつと土壌菌が死んじゃうんですよ。種と土を戻していいんですよ。もう一つ

は愛情を込めて作る。愛情を込めて食べる。食べたい人の中で愛が増える。この愛情の連鎖が豊受式なんです」と答えた。来賓挨拶が続ぎ、静岡県東部農林事務所の井草茂さんは、耕作放棄地は25%あり、徐々に増えている。有機農業を2050年までに25%にしたいという目標を立てていまして。豊受さんは耕作放棄地の解消に尽力されていることに頭が下がる思いです。今、5ヘクタールと言っていますが、今後もっとやりたいというお話なので、有機、自然農は手がかかり大変だと思います。草取りに機械除草というものもあります。早生系の品種を使うと草の生える期間が短くなります。有機農業は草との闘いとなるのですが、5ヘクタールが50ヘクタールになり、益々、豊受さんの農業が拡大することを祈ります」と挨拶した。

伊豆の国市産業部の天野部長は「豊受さんについては、耕作放棄地解消のモデルと感じています。市長からも話がありました。今年から耕作放棄地の解消に向けて資金を用意していますので活用頂き、益々、耕作放棄地解消に向けてご協力をお願いしたいと思っております」と挨拶した。金谷区の酒井区長から「耕作が色んな事情ですが、継続してやって行って頂きたいと思っております」と挨拶した。地元金谷区の小川さんは、花が咲いていることに素敵だと思っております」と語りながら、「すぐそばにうちの田んぼがあります。綺麗にして頂いてありがとうございます」と述べながら「日本は農業大国と呼ばれるが世界に逆行しているように思えます。私達は自分の子供、孫に残していくことが大事だと思います。私も共感しております」と豊受自然農の取組を絶賛していた。その後、記念撮影を行いました。由井眞子代表はFM伊豆の国からのインタビュー(翌週5日連続で伊豆の国市民向け放送された)を受け、参加者はエキネシアの花摘みを行いました。



伊豆の国市の天野産業部長



地元金谷区の小川さん

地元出身で、今春新卒で日本豊受自然農に入社した岩本大和さんは、荒廃農地に昔の水田風景がよみがえり、モリアオガエルなどの生き物が戻ってきたことに感動し入社を決めた。子どもの頃見た風景が戻り、この会社に就職して地元で働けることが本当に嬉しい」と新聞社のインタビュアーに答えていた。オープニングセレモニーは最高潮に盛り上がりを見せ終えた。